

「キッズデザイン賞」3年連続受賞

未来につなぐ家守り「永代家守りプロジェクト」

アートワークショップ「らくがキッズコミュニケーション」

～ 家族に、地域に、より密着したコミュニケーションデザインを提案 ～

木造注文住宅を手がける株式会社アキュラホーム（本社：東京都新宿区、社長：宮沢俊哉）と日本最大の工務店ネットワーク「ジャブネット」（主宰：宮沢俊哉）が行う、「永代家守りプロジェクト」と「らくがキッズコミュニケーション」の2作品が、特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が主催する「第7回キッズデザイン賞」を受賞いたしました。



今年度は過去最高の383件の応募があった中から211点が選ばれました。アキュラホームとジャブネットが行う、未来につなぐ家守り活動「永代家守りプロジェクト」は“未来を担う消費者デザイン部門”で、アートワークショップ「らくがキッズコミュニケーション」は“子どもの未来デザイン 感性・創造性部門”にて受賞しました。今年度の受賞により3年連続受賞（5作品目）となります。

アキュラホームとジャブネットでは、今後も住まいを通して子どもたちの健やかな成長に寄与するとともに、家族、地域により密着したコミュニケーションデザインを提案していきます。

■ 受賞作品概要

1. 「永代家守りプロジェクト」

受賞部門： 未来を担う消費者デザイン部門

※未来の自立した消費者となるべき子どもを育む取り組み、社会環境づくりなどで、新たな発想、工夫、手法があるもの。

概要： 家守りを通じ、住まいのづくり手が住環境の維持管理に関する様々なノウハウを提供し、子どもたちを含めた住まい手が「知る→学ぶ→担う→保つ→伝える」というバトンプログラムを実践します。

開発背景： 当社では、住まいをお引渡しした後も安心して住み継いでいただけるよう、アフターサポート「永代家守り」を行っています。「永代家守りプロジェクト」とは、次世代を担う子どもたちに住まいを「美しく・大切に・長く」住む価値・知識を伝え、家守りの担い手として育てていく「住育プログラム」です。職人さんとの体験型ワークショップや展示場で開催する住まいのお手入れ講座など、地域に密着したサポートによって家族全員で住まいを守ることの大切さを実感しながら、家族それぞれが出来る事を担当します。子どもたちにも役割を持たせることで家族全員の「愛着」「思い」に繋がり、そして子どもたちが大人になったときに自分の子どもへ、孫へと家守りのバトンを繋いでいきます。



※職人さんと一緒に椅子づくりを体験

2. 「らくがキッズコミュニケーション」

受賞部門： 子どもの未来デザイン 感性・創造性部門

※子どもの創造性、感性、五感を育み、自らが進んで創造的な行為に取り組むことを促すもので、新たな発想、工夫、手法があるもの。

概要： ある条件下（建替え、維持管理上発生する壁紙の修繕時など）の住宅展示場を活用して、子どもたちに落書きを楽しんでもらいます。創造的な行為に取り組むことを促し、自由な表現とコミュニケーションの場とします。

開発背景： 近年の子どもたちは、幼少期からの様々な実体験不足、異年齢者や日常行動範囲外の集団での交流が乏しいこと、豊かで成熟した社会にあって価値観が多様化したことなどを背景に、自分で生産する活動や社会性に未熟さが見られるなどの課題が指摘されています。そこで、絵がきっかけとなるコミュニケーションの場を提供することで、子どもたちに言葉以外にも自分たちの思いを表現する手法があることを知ってもらいます。また、アーティストが仕掛け人となって先導することで、他者との共同で物事に取り組む楽しさを発見してもらい、相互伝達の意欲向上を図ります。正解のない自由な表現を通して、多様な考えがあることを知り、お互いに多面的な発見をしたり、個々の自信の醸成に繋がることを願います。



過去3作品がキッズデザイン賞を受賞

— 2012年度 —

・ 「井戸堀り大作戦～ガチャポンを現代に」 ～子どもの未来デザイン リテラシー部門受賞～

子どもたちへは、井戸から出る地下水を通して自然界での水の循環を相関的に考え、豊かな自然環境を未来へと繋いでゆく大切さを啓発する。また、井戸を実際に使ってみることで物理的な原理や道具の有要性を学び、子どもたちのイマジネーションを刺激する。

— 2011年度 —

・ 「しあわせデザインプロジェクト」 ～フューチャーアクション部門受賞～

子どもたちを産み育てやすい環境街づくりを目指したプロジェクト。住宅新築時に家庭と近隣とのコミュニケーションが誘発・醸成されるようなシカケ＝しあわせの種蒔きを施し、継続的に住まい手の成長をサポートする。

・ 「木望(きぼう)の未来プロジェクト」 ～フューチャーアクション部門受賞～

木育を通して「木の素晴らしさ」「物の大切さ」「物づくりの楽しさ」を、次代を担う子どもたちに伝えていくための活動。間伐材を使用した学習用機の天板を小学校に寄贈し交換する活動と、出張授業「ふれあい授業」を通じて、森林の大切さや間伐の必要性などを伝え、環境への意識を高める。

キッズデザイン賞とは、「子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン」、「創造性と未来を拓くデザイン」、そして「子どもたちを産み育てやすいデザイン」の理念を実現し、普及するための顕彰制度です。子ども向け製品・サービスに限らず、あらゆる年齢層が使うもので、かつ子どもへの配慮、子ども目線を持った良質な製品・空間・サービス・プログラム・調査研究活動など幅広いものが対象です。

※ キッズデザイン協議会公式ウェブサイト：<http://www.kidsdesignaward.jp/2012/>

<本件について報道関係からのお問い合わせ先>

株式会社 アキュラホーム 広報課 堀越・若林 Email: aqura_pr@aqura.co.jp

住所: 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル 34F TEL:03-6302-5010 (直通) FAX:03-5909-5560

●写真データは右記よりダウンロードすることができます。 <http://www.aqura.co.jp/news.html>

未来につなぐ家守り

職人さんとWith 体験型ワークショップ

経験豊かな職人さんは、家づくりに大切な材料に精通しています。職人さんと一緒に工事で余った木材で椅子などをつくり、家づくりにいろいろな材料があることを知ってもらいます。

大工さんと椅子を作る



職人さんとの共同作業です

START 知る

in展示場 学ぶ

展示場を自由に使ってWith 住まいのあれこれ講座

展示場を学びの場として、親子や家族一緒に住まいのあれこれや、メンテナンス方法を体験し身につけてもらいます。



初めての経験です



パパと一緒に試してみよう



自分で補修してみよう



住まいを まい手が

次世代を担う子供たちへ
住まいと暮らしを継承する

家守りのバトンを渡す

子供たちは、家を守る知恵と技術が深めながら成長します。その子供が大人になったとき、自分の子供へ、子供から孫へ伝え続けることで「未来に繋ぐ家守り」となります。

for未来 伝える



家族みんなWith

育てて 暮らして

暮らしながら得る経験が
住まい手を育てる

家族の家守りイベント

家族全員で家を守る大切さを実感しながら、みんなが自分の出来ることを担当します。お互いを助け合いみんなで行なうことで、コミュニケーション豊かな家守りイベントになります。



in我が家 担う

綺麗に保ち長く住む

日ごろのお手入れや、適切な時期にメンテナンスすることで、経年変化から家を守り、常に快適で安全に暮らせます。

for快適 保つ



七つ道具です



隙を開けると涼しい空気を感ずる



展示場での学びを思い出します



住まい手と次世代を担う子供たちが、長く住み継いでできるように「家守りプロジェクト」を続けている。当社は、お引渡し後から始まる「家守り」ではなく、すべての人が「長く豊かに暮らせる場」を提供する事が重要だと考えている。安心して住み継ぐ暮らしを継続してもらう為、地域に密着したサポートサービスも行なっている。住まいについて子供にも役割を持たせることは、美しく大切に長く住みたいという家族全員の「愛着」「思い」に繋がる。住まい手の大切な財産、思い出の場所を守っていくことが生産者の責任であり、家守りのバトンを未来へつないでいくプログラムが、「永代家守りプロジェクト」である。

永代家守り PROJECT

AQURAHOME JAHBnet

住宅展示場という場の持つポテンシャルを最大限活用し、子供たちに大胆に楽しんでもらう。そんな発想のアートワークショップです。

イメージーションの誘発

正解のない自由な表現

他者とのコミュニケーション

子どもの行動特性

親子のコミュニケーション

共創の楽しさ

一本の線からはじまる物語

定期的なメンテナンス

災害時対策

限られた人しか来ない

大きすぎる

●子どもたちのパーソナリティーを引き出す、本気のらくがき!

遊ぼう、創ろう!つなごう!

らくがキッズ

Communication~ArtWorkShop

住宅展示場、子どもたちを取り巻く様々なファクターをプラスに誘引!!

コミュニケーションの不得手

伝達力の未成熟

マナーの理解不足

楽しいこと大好き

らくがキッズ

Communication~ArtWorkShop

子どもらしくない子どもが増えている気がします。自分の感情を上手く出せない子、他人に興味を示さない子、思いやりが希薄な子。最近の子どもたちによく見られる特徴です。インターネットなどを使いこなし、遊びや消費活動、情報収集における早熟化が進む反面、自分で生産する活動や社会性等に未熟さが見られるなどの課題が指摘されるようになりました。そこには、幼少期からの様々な実体験の不足、異年齢者や日常行動範囲外の集団での交流が乏しいこと、豊かで成熟した社会にあって価値観が多様化したこと

などが背景にあるといわれています。このワークショップでは、絵がきっかけとなるコミュニケーションの場を提供することで、子どもたちに言葉以外にも自分たちの思いを表現する手法があることを知ってもらいます。また、アーティストが仕掛け人となって先導することで、他者と共同で物事に取組む楽しさを発見してもらい、相互伝達の意欲向上を図っています。正解のない自由な表現を通して、多様な考えがあることを知り、互いに多面的発見をしたり、個々の自信の醸成に繋がることが私たちに願っています。

AQURAHOME JAHBnet